

天理教 江南支部だより

発行先
発行日
発行責任者
発行住所

江南支部
立教189年9月1日
九里正昭
甲賀町神1750番地の1
9月号 N0312

「おやっぴょろ」

これまでの處何ぼ働いたて、暮れた教祖の理を思え。存命の間楽しみの理も無く、理を見ず暮れた教祖の理を見よ。働けば働くだけ、めん／＼心に誠さえあれば踏み損いは無い。

(明治30・12・23)

立教189年「こどもおちばがえり」は3日に閉幕した。7月27日～8日間にはわたって開催された今年は、昨年より約5千に多い、16万4千669人が帰参。子供たちは、教えに親しみ、ひのきしんに励んで、たすけ合いの心を育んだ。

滋賀教区は今年も「こども横丁」を前半を京都教区、後半を滋賀教区が担当した。6月から会場の設営に当たり、多くのひのきしん者の手により準備が進められ、期間中も江南支部からもひのきしんに出仕頂き無事つとめさせて頂いた。連日盛況のうちに幕と閉じた。

こども横丁も連日大勢の子供たちでにぎわった！



だけど有難い ありがとう

深谷善太郎著

「感謝の表し方」には、いろいろな方法があると思います。一番の基本は、「ありがとう」と口に出して言うことでしょう。皆さんは、一日に何回「ありがとう」という言葉を口に出しているでしょうか。

私は若いころ、本部で青年勤めをさせていたっていました。青年は、朝づとめ前に本部詰所へお集まりの先生方にお茶を出して回ります。そのうちに真柱様がお出ましになります。当時は三代真柱様ですが、お茶をお持ちして「おはようございます」と申し上げると、「おはよう」とか「おはようさん」と言ってくださいいます。続けて「どうぞ」とお茶を差し上げると、「ありがとう」とおっしゃるのです。とてもうれしくて、自分もそういう場面では、必ずありがとうと言おうと思つたものです。

この教会でも、朝づとめ前には青年さんがお茶を出してくれます。私は

「ありがとう」とお礼を言います。しかし、なかには何も言わずにお茶を置く人もいます。集まってくる役員さんに、無言でお茶を出しているの、あとで「牛や馬に水をやるのやないんやから、「どうぞ」と声を掛けなさい」と注意したことがあります。「どうぞ」「ありがとう」、これが大事だと思いますね。

先日、妻が留守にしていた朝、私はみそ汁を温めて、中学生の娘に「もう、ぼちぼち起きなあかんで」と声を掛けました。娘は鞆を持って学校へ行く際に、「お父さん、今日はありがとう」と言つて出かけていきました。その「ありがとう」が、とても心地よかつたのです。良い声で、あいさつしていきました。夜、帰ったら娘がいたので、「今日の朝のあいさつは大変良かった。いつも、あのありがとうを忘れないで」と話をしました。「ありがとう」というのは良い言葉です

「ごめんなさい」も大切な言葉です。たとえば、満員電車のなかで誰かの足を踏んだとします。「ごめんなさい」

とすぐに言えば、相手も「いやいや、かまいません」と答えて何事もなく過ぎますね。しかし、謝るタイミングを外したり、あるいは電車が揺れたのだから、満員だから仕方ないと思つたりして声を掛けないと、足を踏まれたほうは一日中、気分が悪いと思います。

私も満員電車でハイヒールの女性に足を踏まれたことがあります。結構痛かつたのですが、その女性が「ごめんなさい」と慌てた様子で謝ってくれたおかげで、さわやかに一日を過ごすことができました。もし、女性が何も言わなかつたら、この人は何を考えているのかと、大変気分の悪い思いをしたことでしょう。

私たちは、「ごめんなさい」や「ありがとう」を素直に言える人間でありたいものです。一日にどれだけ「ありがとう」と口に出しているか、一度考えてみてください。その気になれば、普段の暮らしのなかにチャンスはたくさんあります。買い物に行ったら、お店の人に「ありがとう」、タクシーやバスに乗ったら、降りるとき運転手さ

んに「ありがとう」と言えますね。言われたほうは、うれしいものです。皆が毎日意識して「ありがとう」と言えば、どれだけ明るく陽気な世界に近づくことでしょう。

まずは親神様に「ありがとう」、教祖に「ありがとう」から始めて、周りの人たちに「ありがとう」と言えるようになりましょう。



『みちのとも』より一寸いい話 「おやさまに合言います」

平井直子 泉道分教会長夫人

夕づとめ前の、静かな教祖殿。教祖のお庭をじつと見つめる小学4年生の女の子がいました。「ずっと眺めていたいなあ。このお庭を描いてみたいの」。キラキラした目で彼女はそう言いました。彼女の後ろ姿をしばらく見つめながら、私は生まれて初めて教祖殿を訪れた彼女の頭を、教祖が優しくなでてくださいているような、そんな姿が目に見えました。

教祖、ありがとうございます。

またきょうも、こうして教祖にお目にかかせてもらえる方を一人、おぢばにお連れすることができました。彼女のこれからの人生に、どうか教祖にお会いできる日々を。飛び上がるほどうれしいとき一番にお伝えしにゆける場所を。どうしても苦しくてつらいとき、いつでも帰らせてもらえる場所を。

いまから20年前、教祖百二十年祭に向かう三年千日の3年目。教会復興の志を抱き、夫は26歳で教会長のお許しを頂きました。その後、教祖の御前で夫婦とやらせていただき、このうえない感謝の毎日の中、この道を通らせていただいています。振り返れば、人生の節目節目にはいつも、教祖のお導きがありました。朝の教祖のお出まし、深夜の教祖殿。心が折れそうになるたびに、私は教祖にお会いしにいきました。友人のたすかりを願う日、結婚に悩んだ日、娘を亡くした日……。

教祖の御前にぬかずいて、身も心ももたれきらせていただく尊い時間。顔を上げるころには、必ず教祖のお声が心に届きます。そして、また一步、ま

た一步と歩ませいていただける、そんな日々です。

おぢばの温かさ、教祖のぬくもり、守っていただいている安心感。「ああ、おやさま」と、一緒に涙を流してくださる方を一人でも、このおぢばにお連れしたい。それがこの道を歩む、たつた一つの私の夢です。

教祖百四十年祭まであとわずかとなりました。いつも心に教祖を、そして「一日一動！」を合言葉に、きょうもにをいがけ・おたすけにコツコツと歩ませていただきます。そして、親神様・教祖のお導きで出会わせていただける、ご縁ある方々と共に、年祭当日、教祖に会いにいかせていただきます。

教祖、大好きです。



立教189年 全教一斉にをいがけデー 9月28・29・30日 9月はにをいがけ強調月間



江南支部の計画

28日は、甲南組は午前9時甲南分教会集合、甲南駅まで神名流し、駅前で路傍講演を実施。

甲賀組、信楽組は各教会ごとに実施。

29日、30日は、午前8時30分近南分教会集合、グループに分かれ密集住宅地をリーフレット配布。



令和8年熊本地震 災救援
7月28日に発生した「令和8年熊本地震」から3週間余りが経過した。最大震度7を観測した熊本県内では、建物の全・半壊など被害が約2千400棟に及び、いまでも約3千200人が避難生活を余儀なくされている。
天理教災害救援ひのきしん隊は、熊本教区の要請を受け、本部隊をはじめ順次教区隊が出動、救援活動を進めている。尚、救援募金については本部ホームページをご覧ください。

10月支部ひのきしんデー

10月31日（土曜日）午前9時～11時30分

甲賀学園 鹿深の家 草刈りひのきしん